

平成 22 年 3 月 19 日 15:00～17:30 佐野愛子(公募)

第 2 期中原区民会議を振り返って ～取り組み報告～



私たち自主グループは中原市民館にて、平成 21 年度自主企画事業講座

(川崎市協働事業)「マンションと地域コミュニティ」をテーマに年間 5 回の講座を行なった内容を報告いたします。

現在、中原のまちの約 78% が集合住宅やマンションです。特に武蔵小杉駅周辺の変貌ぶりは驚くばかりです。地域やマンションには、いろいろな年代の複数世帯が共同生活をしています。最近の問題として、個人主義から孤立する居住者も多く存在し、生活する上で生じるさまざまな問題や困難なケースに直面すると思われます。マンション住人も地域社会の一員として、周辺地域と連携をとっていくことも重要です。子育て支援、高齢者支援、防災・防犯対策、環境問題、まちづくりの取り組みへの対応などは、行政、地域社会など様々な連携が不可欠です。

マンションと地域とのコミュニティに関わる問題や課題、マンション管理問題など従来のコミュニティも大切にしながら、新しい時代の地域コミュニティについて学習しました。

<< 変わりゆく「なかはら」に住むための講座 >>

回	日 時		内 容	講 師
1	2009 年 6 月 27 日	防災編	そのときあなたは どうする？	独立行政法人 防災科学技術研究所 坪川博彰氏
2	8 月 29 日	くらし編	マンションに住むということは？ ～マンションライフをエンジョイすることの大切さ～	企画委員
3	10 月 17 日	子育て編	楽しく子育てしましょう ～子育ては人生のチャンス！！～	NPO 法人ままとんきつず 有北いくこ氏
4	11 月 28 日	防犯編	地域の安心安全・犯罪から身を守るために ～あなたの身近に犯罪が潜んでいる～	中原警察署 加瀬俊治氏
5	2010 年 2 月 20 日	まとめ編	パネルでスカッション 変わりゆく「なかはら」に住むために	鍋木茂哉氏 坪川博彰氏 三浦伸也氏 企画委員

防災編 <日頃のお付き合いが決め手>

普段からの地域とマンションとのコミュニケーションを図ることや、マンション内でのクラブやサークルなどの活動は、緊急時に役に立つ。災害時は情報とネットワークの強さが生きてくる。適度な「おせっかい」が必要な社会も必要であろう。また、災害資源を知り避難のイメージすることが大事。町内会単位やマンション固有の災害マニュアルを作ること。情報とつながりが必要となるが、日ごろのお付き合いが決め手になる。

くらし編 <より良い人間関係の形成を…>

トラブルの第 1 位は居住者間のマナー、2 位は建物の不具合、3 位は管理費等。トラブルの解決には特効薬はない。地道に努力することが大事である。

マンションを良く知り、よりよい人間関係を形成していくこと。顔見知りになること。助け合うことなどが必要になっていく。近隣マンション同士が共通の関心事について協力しあうことが大事。

子育て編 <子育てに優しい町はみんなに優しい町です>

子育ては人生のチャンス！！ですが…子育ては格闘です。とても疲れます。一人でなんかとてもできません。子育てには終わりはありません。親がいて子どもがいるということは人間の自然な営みです。おかあさんだけでなく、全ての人がある営みの中で生きています。子育てはコミュニティづくりにとっても良いキッカケになる。もっともっと自然に子育てができればいいなあと思っています。地域を巻き込んで自然に子育てが出来る町になってほしい。

防犯編 <日常のあいさつなどでコミュニケーションを…>

隣の部屋に誰が住んでいるのか知っていますか？近隣との普段からのあいさつ、餅つき大会やクリスマス会などでコミュニケーションを取りましょう。

犯罪者に犯罪を起こさせないような環境づくりが大切です。マンション内の会合、近隣マンションとの情報交換なども必要。防犯対策は敵を知ることから始めよう！！

地域住民は治安のプロです。自分の身体、財産は自分で守りましょう。

「…ながら」を始めよう→「気ながに」「気がるに」「気らくに」+「気をつけて」

まとめ編

●大きな会社の跡地の再開発という事もあり、心を割って話し合う場がないままに武蔵小杉の超高層マンション群がアツという間に建ってしまった。民生委員、青少年指導員などはマンションからは選出されていない。新しい住民とのコミュニティをどのように構築していくか、行政との連携も大きな課題だ。

●災害はあるが町内会、マンション単位で解決できる。「高層難民」は確実に出てくる。災害時エレベーターやライフラインが止まり、高齢又は障害を持っていると階段で下りるのは無理。避難訓練をやっているところがあるが、避難訓練よりも別の方法をみんなで作った方がいい。武蔵小杉の街をウィークエンドを豊かに過ごす町、住むための機能を作った方がいいのではないか。マンションの中で自立していくことが大事であろう。

●中原の平均年齢は39歳と若い。子どもの教育や子育てへの関心は高い。単身やシニア世代もいるのでニーズは様々。自分のマンションをどうするのか一つにまとめていくことが先決。マンション内や町内会単位で意思を統一したほうがよい。更に近隣のマンションとの連携も考えたらベスト。NPOが存在しているがマンション住民主体ではない。行政の息のかかった運営組織になっている。本当の住民ニーズを汲み上げていかなければうまくはいかない。「共有の関心ごとは何か」を探ることが大事。マンションに住むということは運命共同体。

<参加者から出た意見>

●武蔵小杉駅周辺を車の入らない街にしたらどう？●武蔵小杉駅周辺の再開発のコンセプトは何？ビジョンは何？●横須賀線新駅ができるが通過(寝に来るだけ)だけの町にしてほしくない●子どもは将来の担い手、教育や成長段階に影響は？●私たち自身も努力をしたい●歩きながらあいさつが出来る町にしたい●行政は住民のニーズをしっかりと汲み上げてほしい。

<<感想>>

中原の町で快適に生活ができ、中原の町を良くしていきたいと考えている方が沢山いることに感動しました。地域コミュニティはすべてのことに繋がる、コミュニティの大切さが様々なことを解決する糸口になることを学びました。住民の立場に立った、地道な活動をこれからも行なっていくことが大切なことだと感じました。

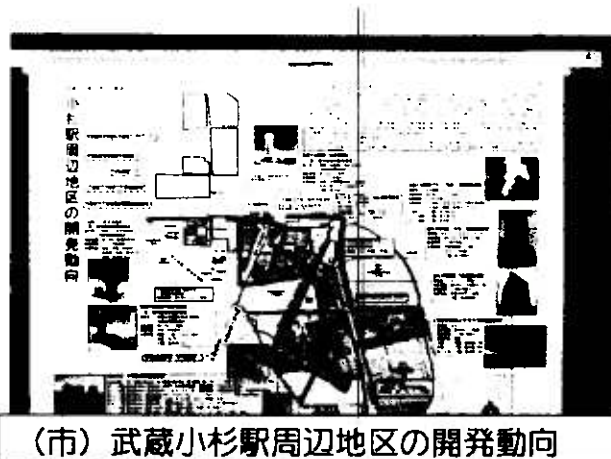


マンションと地域コミュニティ 変わりゆく「なかはら」に住むための講座

第5回 まとめ編 中原のまち・住みよいまちにするために！！

主催：川崎市中原市民館 & マンション生活

マンションに住むということは運命共同体！！



(市) 武蔵小杉駅周辺地区の開発動向

平成22年2月20日(土) 自主企画事業 マンションと地域コミュニティ「変わりゆくなかはらに住むための講座」第5回目、最後のまとめ編として「中原のまち・住みよいまちにするために！」をテーマに、中原市民館の第2会議室にて、川崎市議会議員 鍋木茂哉氏・独立行政法人防災科学技術研究所防災システム研究センター研究員 坪川博彰氏・東京大学大学院社会情報学 三浦伸也氏をお招きして、これからの中原のまちを街づくりと防災とコミュニティについて3人の方々にお話しをいただきました。武蔵小杉駅周辺地区の開発動向(川崎市作成)をA0の大きなパネルを前に参加者の皆さんとの活発な意見交換がされ、これから、快適なマンション生活を送るために大きなヒントをいただきました。お話の一部をご紹介します。

鍋木茂哉氏(川崎市市議会議員)

川崎市議会議員を15年(議長2年)、幸区河原町団地で30年ほど自治会の運営活動を行なっています。

武蔵小杉駅周辺の再開発は、会社の跡地を利用して、「日本で一番住みたい街」としてPR。現在、中原は活性化で盛り上がっています。更に駅北側も開発予定になっています。

大きな会社の跡地の再開発という事もあり、既存の住民と町内会等のアツレキがなく、心を割って話し合う場がないままに武蔵小杉の超高層マンション群がアツという間に建ってしまった。

川崎市内のマンションは自治会をつくって運営しているところが大半である。民生委員、青少年指導員など行政委員はマンションからは選出されていない。新しい住民とのコミュニティをどのように構築していくか、行政との連携も課題ではないでしょうか。



鍋木茂哉氏

坪川博彰氏(独立行政法人防災科学技術研究所 防災システム研究センター研究員)

マンションは災害が起きたときに同じ方向を向いているので団結していけるので、町内会に入る必要がない。今後、小規模の災害はあるが町内会、マンション単位で解決できるでしょう。

今は、住みたい街ナンバーワンだが、寝に来る街が良い町なのか。何をめざしているのか知りたい。

犯罪や殺人が起こるとマンションの価値は低下する。〈住みたい町＝住んだことがない人が言うこと〉古い町を変えていくことは大事だが大変である。

地震が起きてマンションが倒れるかどうかはデベロッパーが自信を持って建築しているので倒れないと思う。「高層難民」は確実に出てくる。高層階は眺めが良いが、30年後を考えると災害時エレベーターやライフラインが止まり、高齢又は障害を持っていると階段で下りるのは無理です。せめて2階か3階くらいに住むのがベスト。

マンションで避難訓練をやっているところがあるが、避難訓練よりも別の方法をみんなで考えた方がいい。武蔵小杉の街をウィークエンドを豊かに過ごす町、住むための機能を作った方がいいのではないのでしょうか。マンションの中で自立していくことが大事であろう。



三浦伸也氏(東京大学大学院社会情報学)

中原の平均年齢は39歳と若い。子どもの教育や子育てへの関心は高い。しかし、子育てが終わったシニア世代もいるのでニーズがバラバラである。自分のマンションをどうするのか1つにまとめていくことが先決。

短期間でマンションが出来た。近隣とのコミュニティよりも自分達のマンションをどうしたらいいのか、考え方の違いがあるのでマンション内で意思を統一したほうがよい。更に近隣のマンションとの連携も考えたらいい。

行政主体でNPOが存在しているがマンション住民主体ではない。行政の息のかかった運営組織になっているので、思い切ったことが出来ない。本当の住民ニーズを汲み上げていかなければうまくはいかない。

コミュニティは学校・福祉・自然の3つに分かれる。コミュニティの中心は学区が望ましいが、武蔵小杉駅周辺は3つの学区があり、学区が違う中で醸成ができるか？中心が3つに分散されるので共同は難しいと感じている。

子育ては関心度が高い。コミュニケーションを図る上では子育てサークルや趣味の活動が良い。

「共有の関心ごととは何か」を探ることが大事です。防災のテーマでは日常的に、日頃から意思の統一を図らないとバラバラになってしまう。マンションに住むということは運命共同体です。

<意見交換>

車の入らない街にしたら！！

●一戸一戸孤立しているがこの街は良くなるのか ●子どもが急激

に増加して学校はプレハブ校舎。学校を1つ建てたほうが良かったのではないのか。教育は大丈夫？ ●地域性を知りどの様に構築していくのが大事 ●大型電気店、大型書店がないのが不便。気の利いたやお店やホテルなどが無い ●人を結びつけるものがあるといいのでは！

●散歩でペットの名前で知り合い輪が広がられた。この地域に「ドッグラン」を是非作ってほしい ●武蔵小杉周辺を愛着のある町にしてほしい ●武蔵小杉周辺を車の入らない街にしてはどうか ●コミュニケーションは相手の話を聞くのが基本である。何をやるにしても、人とひとが対面してしっかりやっているとダメ

●どういう街にしたいのかコンセプトがわからない ●バランスをとりながら意見を吸い上げることが大切 ●再開発のビジョンがわからない ●帰属意識がない ●行政は住民のニーズを把握するべきである。

<1年間お世話になりありがとうございました。マンション生活>

つぶやき！！

マンション戸数が多いことと価値観の違いがあり町内会には入らないと決めた。会費の問題ではなく古い体質の組織では難しい。

NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメントへ加入するように勧められたが、行政主体で何をしたい組織なのかわからなかった。

個人情報保護法などでプライバシーを知られたくない人が多いので調査は難しい。災害は災害規模が大きいほど、復旧に時間かかるので「高層難民」といわれる人が出てくると思われる。マンションで「あいさつ」を行なうようにした。普段のあいさつでトラブル、防災などにも役立つと思う。町を歩きながら「あいさつ」ができる町を推進していきたい。予想に反して若い世代が入居されたが、住民のニーズが生かされていない。近隣との連携はこれからだ。マンション間の連携はどうしたらいいのだろうか。行政が市民の声を吸い上げてほしいと思う。